

第1章 運営計画

第1節 サービス提供目標

1. つきみの園グループ運営ビジョン

東京聖労院の存在意義と基本理念、法人職員倫理綱領に則り、職員一人一人が、笑顔を絶やさず、心地よい挨拶ができ、その上で、各事業が専門性を活かした質の高いサービスを、効果的に、効率よく提供することにより、地域の福祉に貢献します。

2. 中期事業目標（平成30年度から平成32年度）

法人本部事業計画に則り、つきみの園グループの事業目標を下記の通りとします。

計画目標	平成30年度	平成31年度	平成32年度
将来への事業継続を維持する 増減差額ゼロを下限目標とし、必ず上回るよう利用率の目標達成と経費削減により、	① 特養 98%短期 107%稼働維持	① 特養 98%短期 107%稼働維持	① 特養 98%短期 107%稼働維持
	② 通所一般 92%（定員 35→38 名に変更）・総合 61% 訪問介護 1300 時間以上	② 通所一般 92%・総合 61% 訪問介護 1300 時間以上	② 通所一般 92%・総合 61% 訪問介護 1300 時間以上
	③ 居宅人員増に伴う適正プラン管理・包括介護予防プランナー配置	③ 居宅主任介護支援専門員研修受講・包括人員増における業務の見直し	③ 居宅特定事業所加算取得・包括人員増における業務の見直し
	④ 事務費・事業費の有効活用・介護機器、福祉用具等入れ替え計画作成	④ 介護機器、福祉用具入れ替え計画に沿って対応	④ 介護機器、福祉用具入れ替え計画に沿って対応
中重度者に対するケアの充実と地域包括ケアに応じた専門的サービスの拡充を図り、地域に貢献する。	① 中重度者（特養 3.9 以上、短期入所 3 以上、通所 2 以上、訪問身体介護 50%以上）に対応するための取組み計画作成。	① 中重度者受け入れ体制見直し	① 介護報酬次期改定に向けての取組み計画策定
	② 入所部門、在宅部門における認知症ケアの充実並びに機能維持、予防への取り組み	② 認知症介護リーダーの配置、加算取得 認知機能維持・予防へ地域住民の参加継続	② 認知症ケアの見直し
	③ 地域の介護予防・生活支援の担い手の育成・軽度者サービス（通所・訪問）の確立と割合の把握	③ 軽度者サービス担い手・地域住民との連携	③ 軽度者サービスの見直し
	④ 地域住民参加、ネットワークづくり、サロン等の確立	④ ボランティア等との関りの再構築	⑤ 地域住民との関りの見直し
きな多 方働様	① 法人ワークバランス行動計画に基づく就業環境の整備	① 左記の整備状況を把握し、更なる構築に努める。	① 労働環境を再度見直す。

	② キャリアアップ制度に準じて、職員成長支援を行う。	② 左記の結果を確認するために経営幹部との対話の機会を増やす。	② 職員満足度を図り、更なる支援方法を模索する。
の 先 進 的 技 術 等 を 用 い 組 織 の 効 率 化 ・ 活 性 化 を 図 る。	③ 職員配置数・人件費の上限目標を意識し、業務標準・ローテーション・役割分担を見直す。	③ 見直しに応じ、他法人との連携を視野に入れた効率的なサービスを提供する。	③ 次期介護保険改定に向けての情報収集に努める。
	④ ICT化の整備、介護ロボット等の導入を進め、人財の機能分散を図る。	④ 機能分散したことによる弊害等の把握、更なる先進技術等の見極めを行う。	④ 次期介護保険改定に向けての情報収集に努める。

3. 平成 31 年度の重点的事業目標

(1) 事業継続のため、サービス増減差額 4.0% を目標とした利用率達成と経費削減への取り組み

行動計画	具体的項目	担当部門								達成状況指数
		総務	栄養	特養	短期	通所	訪問	居宅	包括	
① 稼働率向上・維持	新規顧客の獲得			○	○	○	○	○	○	毎月課長会にて報告、他部署から意見を徴収する。
	サービス範囲の再構築			○	○	○	○			
② 改正に伴う体制の変更	通所介護サービス提供時間変更、各部署新たな加算取得			○	○	○	○	○		毎月請求状況把握
③ 事務費の有効活用	介護ソフトを利用しグループ内連携、情報共有強化、人件費の効率化、生産性の向上への取り組み	○	○	○	○	○	○	○	○	情報共有の為の会議実施 (年6回)
④ 事業費の有効活用	介護機器・福祉用具購入入れ替えの計画作成	○	○	○	○	○	○	○	○	各部門会議内での議題共有

(2) 中重度者に対するケアの充実と地域包括ケアに応じた専門的サービスの拡充を図り地域に貢献する。

行動計画	具体的項目	担当部門								達成状況指数
		総務	栄養	特養	短期	通所	訪問	居宅	包括	
① 介護度の把握	特養 3.9 以上		○	○						毎月課長会にて報告 他部署から意見徴収
	通所介護 2 以上					○				
	訪問介護 身体介護 50%以上						○			
② 認知症ケア	アセスメントに基づいた ダイバーショナルセラピー の実施			○		○				アセスメント、ルームビジット 実施と企画の把握
	地域住民サポーターを育成 し、脳の体操クラブの実施	○		○		○			○	サポーター養成研修の実施 とクラブの実施回数
③ 軽度者サービス 確立	介護予防・生活支援の担い 手の育成・軽度者サービス (通所・訪問) の確立と割 合の把握					○	○			毎月課長会にて割合の把握
④ 地域 貢献	地域住民参加	○		○		○			○	ボランティア、サブスタッフ、 サポーター数把握 つきみのランチ
	ネットワークづくり・地域 サロン	○	○			○		○	○	サロン回数、参加者把握

(3) 多様な働き方と成長支援による職員満足を得る。

行動計画	具体的な項目	達成状況指数
① 法人ワークバランス行動計画に基 づく就業環境の整備	職位に応じた意見交換会の開催。	課長会で把握 年 6 回
② キャリアアップ制度に準じて職員 成長支援を行う。	幹部職員との懇談会の開催。	課長会で把握 年 6 回

(4) 先進的技術等を用い、組織の効率化・活性化を図る

行動計画	具体的な項目	達成状況指数
① 業務標準・ローテーション・役割分担 を見直す。	職員配置数・人件費の上限目標を意識し、 毎月、項目ごとに進捗状況を確認する。	課長会で把握 年 6 回
② ICT化の整備、介護ロボット等の 導入を進め、人財の機能分散を図る。	ワイズマンの更なる活用と先進的技術等 の情報を確認する。	課長会で把握 年 6 回